

健 診 後 の 指 導

動 向

予防医学協会が実施している健康診断の受診者総数は統計表(検診・検査の種目別実施数)のとおりである。近年、定期健康診断や人間ドックなどで有所見率が増加しているという報告がなされている。これらの受診者に対して施設では事後措置のために各種外来、保健指導、健康教育の場を提供している。

平成13年度における施設での健診後のフォロー体制は、精密検査の実施 フォローアップ 生活習慣改善指導、の三つの柱から受診者を支援している。

事後指導の体制

消化器外来

消化器検診、大腸がん検診、腹部超音波検査の精密検査およびフォローアップを実施している(胃集団検診・大腸がん検診・超音波検診参照)。

循環器外来

定期健康診断、人間ドックなどの循環器系有所見の精密検査、フォローアップ、生活指導などを実施している(循環器精密検診参照)。

生活習慣病外来

生活習慣病の精密検査や生活指導を行うための外来である。検査結果をもとに医師が指導方針を定め、保健師が生活習慣の改善指導を行う。平成12年3月に開設。平成13年度は50名で延べ57名が受診した。

また生活習慣病改善プログラムに参加した受診者の医学的検査、検査結果の説明などを行っている(健康増進参照)。

労災保険二次健康診断

業務によるストレスや過重な労働負荷により、脳・心臓疾患を発病し、死亡あるいは障害になり労災認定される件数が増加している。そのため2001年4月から肥満、高血圧、高血糖、高脂血症の4項目全てに異常が見られる場合(死の四重奏)に労災保険で二次健診が行われるようになった。平成13年度は45名が受診した。

特定保健指導は46名で、栄養指導、運動指導、生活

指導などライフスタイルの改善の指導を行った。

腎外来

昭和51年からスタート。学校検尿で異常が指摘され管理指導が必要な学童に対する管理指導を実施。その後、事業所の健診で腎疾患の疑いのある人も対象とした。受診者は143名、保健師・管理栄養士による指導は148名。

糖尿病外来

糖尿病の大多数は生活習慣が大きく発病に關与する2型糖尿病である。健診後に所見のあった人に医療管理・生活指導を行う。平成13年度は32名で延べ123名。保健師・栄養指導は119名。

女性クリニック

婦人科系がん検診受診者に対して更年期の指導を行っている。平成13年度は122名で年齢階層別には50歳～55歳を中心に45歳～60歳に多く、ホルモン補充療法に対する要望が多い。

保健師が指導しているのは122名。

整形外来

骨粗鬆症予防検査で生活注意、要治療の人の事後指導を行っている。今年度は530名が外来を受診。

特に生活改善が必要な人に食生活、運動などの保健指導を449名行っている。

禁煙外来

禁煙指導を推進するために平成12年に開設。今年度は35名が受診。うち禁煙成功者は20名、成功率は57%と高い。減煙も入れると成功者は27名で成功率は73%となる。

外来指導後の3ヶ月後、6ヶ月後、1年後に保健師が電話等でフォローしている。